# 7/18 マタイの福音書 5 章 21-26 節「兄弟と仲直りをしなさい」

小池 宏明 牧師

山上の説教の中盤には、六つの反対命題が並んでいる。それは、十戒（律法）の言葉を取り上げて「しかし、わたしは言います。」と語る形式だ。モーセに与えられた律法が、時代の流れと共に本来の意味から外れて理解されるようになっていた。それで、主イエス様は、律法の本質的意味を明らかにされた。

**＊心の思いと心から出る言葉による殺人**

21、22 節を読むと、主イエス様は、自分の心と言葉で他者を見下して呪う者は人殺しと同じようにさばきを受けなければならないと言われる。自分のこれまでの人生を振り返ってみるならば、心の中で、口から出る言葉で、いったい、何人殺して来たのだろうか。私たちは、自分自身の中に、どんな魔物（罪の性質）が住んでいることか！よくよく顧みるならば、いくらでも発見できるだろう。自分の中に隠している罪の性質に気付いたなら、私たちは、救い出して下さる主イエス・キリストの許に行く他ないのだ。

23、24 節では、主イエス様が、神様への礼拝や神様との和解よりも「兄弟と仲直り」することを優先するように求めている。

**＊主の十字架のゆえに赦された者として**

主イエス・キリストは、罪のないお方なのに、十字架の道を選び、真っ直ぐに歩んで行かれるお方。キリストの打ち傷のゆえに、私たちは癒され救い出された。（イザヤ 53 章）自分の罪深さに気付く時、主の御前で、心を静めて、自分の心の中で何が起きているのか、見つめ直そう。そして、主イエス様が、そんな自分をどのように扱われるのか分かるまで、主の御前に留まり続けよう。主イエス様ご自身が、神と人々とを仲直りさせるために、そして、他人と他人との隔ての壁を打ち砕くために、十字架の道を歩み、勝利されたのだ。私たちが、ある人に怒る時（腹を立てる時）、それは、主イエス・キリストの許に行く合図なのだ。キリストの御業に期待して、キリストに立ち帰る時である。私たちの家庭や職場、学校や地域社会の中で、あるいはキリストの教会の中で、受け入れられない、恨んでいる、そういう人が居るだろうか。振り返ってみよう。

主が創られた一人ひとりを殺さずに、生かす交わりを持とう。主イエス様は、どちらが良い悪いではなくて、気付いたあなたが、私が、行って仲直りをするように、求めておられるのだ。怒りを抱え続けることは、相手と自分の心身を破壊していく。和解の道は、主イエス様に私の心を知って頂き、主の力を頂く平安の道なのだ。和解の道を行くことができるように祈ろう。